

# 自然遊学館 だより

第11回 生きもの切り絵展



川村甚吉切り絵作品展

2016年4月17日～5月8日まで、自然遊学館前館長の故川村甚吉先生の切り絵作品展を多目的室にて開催しました。

**2016 SUMMER**

**No.80**



2016. 8. 22 発行 貝塚市立自然遊学館

## 目次

### \*ネイチャーレポート

近木川河口干潟再生地（汽水ワンド）に

ハクセンシオマネキが定着 …… 山田浩二… 1

ハクセンシオマネキ …… 大島麻里… 2

千石荘でアナグマを目撃 …… 岩崎 拓… 2

### \*行事レポート

渚の生きもの …… 山田浩二… 4

二色の浜稚魚放流 …… 澤田智子… 6

親子海釣り体験 …… 山田浩二… 7

### \*泉州生きもの情報

はじめまして「オグマサナエ」です！… 澤田智子… 8

スネナガイソガニ …… 山田浩二… 9

### \*館長コーナー

海の学びミュージアムサポート 2016

…… 高橋寛幸… 10

### \*生きものがかり

遊学館で飼育している生きもの 7… 鈴子勝也… 13

\* 寄贈標本 …… 15

\* スタッフ日誌 …… 20



## ネイチャーレポート

### 近木川河口干潟再生地（汽水ワンド） にハクセンシオマネキが定着

近木川河口右岸に2012年11月完成した干潟再生地（通称：汽水ワンド）に昨年ハクセンシオマネキの稚ガニたちが住み着き始めました。2015年9月25日、生物モニタリング調査の際に干潟の表面に直径3～5mmほどの丸い穴がたくさん開いているのを見つけ、そこからハクセンシオマネキの稚ガニたちが出てきて活動する様子が確認できました（図1）。

2016年6月19日、近木川河口のハクセンシオマネキの分布調査を行った際にも、無事に冬を越して生きながらえ、一段と大きくなった彼らの姿を目にすることができました（図2）。汽水ワンドの看板にシンボル種として載っている待望のハクセンシオマネキが、ようやくこの場所に生息するようになったわけです。



図1. ハクセンシオマネキの稚ガニ  
(左のハサミが大きくなり始めている)

この要因のひとつは、汽水ワンドを管理している大阪府岸和田土木事務所によっ

て、2015年5月に近木川下流の河川敷の土砂が干潟に投入（盛り土）されたことです。それまで、干潟の底質は泥っぽくヤマトオサガニやヒメヤマトオサガニが一足先に住み着くようになっていました。投入した土砂は多くの礫を含んだ砂質のもので、投入した範囲の干潟の底質が一変してしまいました。干潟に住むカニは生息するのに好みの底質があり、住みわけをしています。砂泥質を好むハクセンシオマネキにとってはとりあえず生息可能な場となりましたが、泥っぽいところを好むヤマトオサガニやヒメヤマトオサガニの姿がみられなくなっていました。



図2. 汽水ワンドでのハクセンシオマネキ調査  
(2016年6月19日)

ハクセンシオマネキにとってより良く、ヤマトオサガニ、ヒメヤマトオサガニも生息できる干潟にするにはどうすればいいのでしょうか？砂泥質なところもあれば、ぬかるんだ泥質なところもある干潟、つまりは自然の河口干潟の環境を目指せばいいのではと思います。汽水ワンドの土砂を投入していない箇所は、いまだぬかるんだ泥地として潮下帯に存在していますが、土

砂を入れて盛り土をした場所とは高低差のある急峻な段差が生じてしまい、いまだ解消されていません。陸域と水域がなだらかにつながる自然な干潟環境に近づけるため、投入した土砂に含まれた多すぎる礫を人為的に取り除く作業を少しずつ始めています。

### 参考文献

『近木川干潟再生地における経過観察業務 平成27年度報告書』（貝塚市立自然遊学館、2016）

(山田 浩二)

## ハクセンシオマネキ

学名: *Uca lactea* (De Haan, 1835)  
スナガニ科

ハクセンシオマネキは、干潟に深さ20～30cmの巣穴を掘って生息する甲幅20mmほどの小型のカニです。砂粒をハサミで口に運び、有機物をこしとって食べ、残りの砂粒は団子状にして出します。雄は左右どちらかのハサミ脚が大きく、繁殖期にはこの巨大なハサミを振る「ウェイビング」と呼ばれる行動が見られるので干潟でよく目立ちます。ハサミを振る様子が「白い扇」を振るように見えることが名前の由来です。



干潟の上部に生息するため護岸工事などの影響を受けやすく、数が減ったり見られなくなった地域もあり、「干潟の絶滅危惧動物図鑑—海岸ベントスのレッドデータブック」において準絶滅危惧と評価されています。

(和歌山県立海南高校教諭 大島麻里)

## 千石荘でアナグマを目撃

4月12日、昆虫調査を終えて千石堀城址から切通しに降りてきた時、ロータリーの方から、1頭の獣が一目散という感じで走って近づいてきました。白い紙袋を持って調査していたので、「餌をくれると思って近づいてくるネコ」かなと思いました。でも何か様子が変わります。走る姿が野性的に映るのは、重心が低いからでしょうか。20メートルほどの距離を置いて、向き合う形となり、アナグマだと認識しました。向こうもこちらに気付いて、すぐに逆方向に走り去りました(図1)。



図1. 振り向いて逃げようとするアナグマ  
(貝塚市千石荘、2016.4.12撮影)  
この写真から分かる特徴は、耳が小さいことです。

寄贈された標本や写真を含む自然遊学

館の記録では、これまで貝塚市内で和泉葛城山山頂付近、蕎原、大川、三ツ松で確認されてきました(本誌 48 号、など)。でも、千石荘では初めてです。千石荘で7種目の哺乳類の記録となりました(表1の「○」印)。千石荘の哺乳類のリストは本誌 70 号において、大阪府レッドリスト種に関するリストは本誌 74 号において報告してきましたが、いずれのリストも更新することになりました。千石荘の哺乳類のレッドリスト種では、カヤネズミに次いで2種目です(いずれもランクは準絶滅危惧=大阪府内において存続基盤が脆弱な種)。

表1. 貝塚市と千石荘で確認された哺乳類

千石荘で確認された種を「○」印で示した。  
(自然遊学館記録分、2016年6月30日現在)

科	種	千石荘
トガリネズミ科	ジネズミ	
モグラ科	ヒミズ コウベモグラ	○
ヒナコウモリ科	アブラコウモリ	
オナガザル科	ニホンザル	
ウサギ科	ノウサギ	○
リス科	ニホンリス ムササビ	
ネズミ科	アカネズミ ヒメネズミ カヤネズミ ハツカネズミ	○  ○
ヌートリア科	ヌートリア	
アライグマ科	アライグマ	○
イヌ科	タヌキ	
イタチ科	テン イタチ チョウセンイタチ アナグマ	   ○
イノシシ科	ニホンイノシシ	○
ネズミイルカ科	スナメリ*	

\* 海産

表1に示したように、アナグマ(ニホンアナグマ)は、今、世間をにぎわせているクマの仲間ではなく、イタチ科に属します。長いトンネルを掘って生活することが名前の由来です。引用文献にあげた図鑑による記述では「夜行性で夜になるとミミズや昆虫などの土壌動物、カエルやカタツムリ、落下した果実やドングリなどを求めて歩き回る」とあります。雑食性なんですね。どんな生きものか写真では分かりにくいという方は、自然遊学館に貝塚市大川産のはく製を展示しているので、見に来てください(図2)。



図2. アナグマのはく製

2007年10月2日に貝塚市大川で拾われた死体をはく製にしました(本誌48号参照)。

### 謝辞

大阪自然史センターの西澤真樹子さんに、同定の確認をしていただきました。

### 引用文献

- 『大阪府レッドリスト2014』(大阪府、2014)
- 『フィールドベスト図鑑 日本の哺乳類』(学習研究社、2002)

(岩崎 拓)

## 行事レポート

### 渚の生きもの

日時：2016年5月22日（日）13:00～15:30

場所：近木川河口

参加者：57人

晴天の中、今年度最初の観察会となる「渚の生きもの」を近木川河口で行いました。講師に魚を専門とする日下部敬之さん、貝を専門とする児嶋 格さんに来て頂きました。第9回大阪湾生き物一斉調査も兼ねたものとなりました。

この日の最干潮は13時過ぎでしたので、観察会をスタートする頃はちょうど一番潮が引いている様子でした。はじめの説明は手短にして、さっそく採集に取り掛かって頂きました。テトラポッド周辺を探したり、転石をめくったり、スコップで砂泥を掘ったりして生きものを採集しました。子供たちは浅くなった水辺をジャブジャブと歩き、タモ網で生きものを捕まえるのが楽しそうでした（図1）。各自、自由に1時間ほど採集し、生きものが入った容器を日陰へ運びました。

続いて、波打ち際まで移動して地曳網です。網の構造を日下部講師から教わったのちに、スタッフらが網を50mの沖出しを行いました。参加者は二手に分かれて号令に合わせてロープをひき、網を岸までたぐり寄せました（図2）。2回の網入れで、ウミタナゴ類の幼魚やサラサカジカなど小魚ばかりでしたが、10種172匹の魚が採集できました。危険な魚がいることもあることをあらかじめ参加者に説明していた通り、ヒレに毒をもつゴンズイも入っていました。



図1. 近木川河口で生きもの探し



図2. 近木川河口で地曳網

最後に今回の観察会で採集した生きものについて講師の方より解説して頂きました（図3）。ここでは珍しい貝として、左巻きのキリオレガイや昨年9月に初記録されたオチバガイ（図4）が見つかりました。ウミニナの稚貝がたくさん見られたのも今回が初めてでした。甲殻類では近木川河口では久しぶりに目にするヨコヤアナジャコ（図5）も採集されていました。波打ち際の浜辺では、直径1cm大の穴がいくつも開いており、掘ってみるとイソギンチャクが石にくっついていました。画像を千葉県立中央博物館の柳研介研究員に見て頂くと、イシワケイソギンチャク（図6）と確認できました。



図 3. 採集した生きものの解説



図 4. オチバガイ



図 5. ヨコヤアナジャコ



図 6. イシワケイソギンチャク

表 1. 近木川河口で観察した海岸動物

2016年5月22日

	グループ	和名	
刺胞動物門	鉢虫綱	ミズクラゲ科 <b>ミズクラゲ</b>	
	花虫綱	タテジマイソギンチャク科 <b>タテジマイソギンチャク</b>	
		ウメボシイソギンチャク科 <b>イシワケイソギンチャク</b>	
軟体動物門	多板綱	ケハダヒザラガイ科 <b>ケハダヒザラガイ</b>	
	腹足綱	ユメガカサガイ科 <b>ユメガカサガイ</b>	
		ユキノカサガイ科 <b>ヒメコザラ (シボリガイ)</b>	
		サザエ科 <b>スガイ</b>	
		アマオブネガイ科 <b>イシマキガイ</b>	
		ウミノナ科 <b>ウミノナ</b>	
		タマキビガイ科 <b>タマキビ</b>	
		<b>アラレタマキビ</b>	
		<b>マルウズラタマキビ</b>	
		アツキガイ科 <b>イボニシ</b>	
		ミツクチキリオレ科 <b>キリオレガイ</b>	
		ムシロガイ科 <b>アラムシロ</b>	
		有肺類 <b>カラマツガイ</b>	
		<b>キノハナガイ</b>	
		二枚貝綱	イガイ科 <b>ムラサキイガイ</b>
		<b>コウロエンカワヒバリガイ</b>	
		<b>ホトギスガイ</b>	
		イタボガキ科 <b>マガキ</b>	
	フナガタガイ科 <b>ウネナシトマヤガイ</b>		
チドリマスオ科 <b>クチバガイ</b>			
シオサザナミ科 <b>オチバガイ</b>			
マルスタレガイ科 <b>アサリ</b>			
環形動物門	多毛綱	サンハチウロコムシ <b>サンハチウロコムシ</b>	
	カンザシゴカイ科 <b>ヤッコカンザシ</b>		
	ゴカイ科 <b>ヤマトカワゴカイ</b>		
節足動物門	顎脚綱	イワフジツボ科 <b>イワフジツボ</b>	
	フジツボ科 <b>タテジマフジツボ</b>		
	<b>アメリカフジツボ</b>		
	<b>シロスジフジツボ</b>		
	ミヨウガイ科 <b>カメノテ</b>		
	フクロムシ科 <b>ウンモンフクロムシ</b>		
	軟甲綱	キタヨコエビ科 <b>ボシエットゲオヨコエビ</b>	
	フレカラ科 <b>トゲワレカラ</b>		
	フナムシ科 <b>フナムシ</b>		
	アナジャコ科 <b>ヨコヤアナジャコ</b>		
	ホンヤドカリ科 <b>ユビナガホンヤドカリ</b>		
	コブシガニ科 <b>マメコブシガニ</b>		
	モクスガニ科 <b>モクスガニ</b>		
	<b>ケフサイソガニ</b>		
	<b>タカノケフサイソガニ</b>		
	<b>ヒライソガニ</b>		
	コメツキガニ科 <b>コメツキガニ</b>		
	オサガニ科 <b>オサガニ</b>		
	背索動物門	ホヤ綱	シロボヤ科 <b>シロボヤ</b>
軟骨魚綱	アカエイ科 <b>アカエイ</b>		
硬骨魚綱	ゴンズイ科 <b>ゴンズイ</b>		
	ボラ科 <b>ボラ</b>		
	メバル科 <b>メバル属</b>		
	<b>ムラソイ</b>		
	カジカ科 <b>サラサカジカ</b>		
	<b>アナハゼ</b>		
	スズキ科 <b>スズキ</b>		
	タイ科 <b>クロダイ</b>		
	ウミタナゴ科 <b>ウミタナゴ属</b>		
	ニシキギンボ科 <b>ギンボ</b>		
	イソギンボ科 <b>イソギンボ</b>		
	ネズツボ科 <b>トビヌメリ</b>		
	<b>ネズツボ属</b>		
	ハゼ科 <b>ミミズハゼ属</b>		
	<b>ヒメハゼ</b>		
	フグ科 <b>クサフグ</b>		

(山田 浩二)

## 稚魚放流

日時：2016年6月4日(土)10:00~13:00

場所：二色の浜

参加者：70人(子供42人)

日本財団「海の学びミュージアムサポート」助成事業

「お！今年もヒラメ放流するんかいな。  
また子供がわんさか来るんやろ」

まだ参加者も集まっていない準備段階のときに、地元のお兄ちゃんが楽しそうに近寄ってきました。お笑い芸人ガレッジセールのゴリさんをグッと若く二枚目にしたようなお兄ちゃん。

そう、その通り。行事スタート時には40人を超える子供たちがヒラメの稚魚が入った水槽を取り囲んでいました(図1)。



図1. ヒラメの幼魚を取り囲む参加者

大阪府栽培漁業センターから運んでこられたヒラメの稚魚たちは長さ10cmほどの可愛いサイズ。行事スタート時には水槽に約500尾が入っていて、水槽の底を覆い隠すように重なりあっていました。水上にはそれを覗き込む無数の顔。さぞかしヒラメたちはドキドキしていたでしょう。

この行事は、毎年、海のゴミ拾いからスタートします。15分ほどの短い時間ですが、

700のゴミ袋3枚分のゴミが集まり、その大半が花火であったことが夏の到来を感じさせてくれました。

さあ今度こそ稚魚放流。栽培漁業センターの若手職員2人からヒラメの生態について教えてもらい、「大阪湾で大きく育ててね」という気持ちで海へ放ちます！

各々の子供たちが、楽しそうに網でヒラメをすくい、小さなバケツに移していきました。一番楽しい作業です。だいたい5尾くらいすくったら、海へ運び、放流(図2)。これをひたすら繰り返しました。そう、ひたすら。。

風はあるけれども、日差しが暑くなってきた季節。子供たちがいつバテてくるか心配し始めた頃、水槽のヒラメの数が残りわずかとなりました。



図2. ヒラメの幼魚を海へ放流

「よいっしょ！」威勢の良い掛け声が聞こえたと思ったらセンターの若手職員が、まるで卸売市場の魚屋さんのごとく、カゴに入った大量のヒラメを水槽にサバッと追加。喜びに沸き立つ子供たち！私たちの心配は無用だったようで、子供たちは決してバテてなどおらず、心の底から楽しんでくれていたのです。

その後2回のヒラメ追加の末、小6の大きい子供たちの活躍もあり、最終的には1000尾を放流。

最後に、またまた様子を見に来たゴリさん似のお兄ちゃんが「ええ！1000尾運んだん？」と声を上げ、ちょっと疲れが出ていた子供たちの顔が誇らしげに輝きました。

(澤田 智子)

## 親子海釣り体験

日時：2016年6月25日(土) 9:00～11:30

場所：二色の浜突堤

参加者：41人

日本財団「海の学びミュージアムサポート」助成事業

昨年に引き続き、フィッシングショップ T ポート貝塚店の協力の下、講師の食野店長のほか(図1)、今回は店員2人の方もサポート役として応援に来て下さいました。明け方までの雨で、近木川河口では茶色く濁った水が流れ、釣りには不向きなコンディションでしたので、突堤には一般の釣り客が誰もいませんでした。せまい突堤なので、結果として行事で突堤を占有できたという利点もありましたが...



図1. 釣り方についての説明

まず、竿の振り方の練習です。天秤と呼ぶおもりを付けただけの状態で、竿を振りかぶり遠くへ投げて、リールを巻くという動作を覚えてもらいました。次に、仕掛けをリールのついた竿に取り付け、エサのゴカイを針に通すという、初心者にとってはなかなか手こずる作業に取りかかりました。

準備が整った方から、ようやく釣り糸を垂らして釣りを始めて頂きました(図2)。昨年とは違い、なかなか釣れたという声が聞かれませんでした。T ポートの方も「今の時期はキスがたくさん釣れているんですけど、今日は全くですね...」と、残念がっていました。そんな中、女の子の「釣れた〜!」という嬉しそうな声が聞こえ、駆けつけました。キュウセン(図3)です。4年目となる今回の「海釣り体験」行事で、初めてボウズになるかも...と心配し始めていたところでした。

その後、他の女の子にも当りが来て、キュウセンが釣れ、「終了」のアナウンスをしている中で、最後に男の子がアオベラと呼ばれるキュウセンの雄を釣り上げました。以上、本日の釣果はキュウセン3個体となりました。



図2. はじめての海釣りに挑戦



図 3. 釣れたキュウセン

(山田 浩二)

### 泉州生きもの情報

## はじめまして「オグマサナエ」です！

少し暑くなり始めた季節の5月13日に、毎月定例の千石荘の昆虫調査が行われました。当日の調査員は私を入れて5名。初めて参加する私は、大きな捕虫網と大量の採集ケースを持ち、やる気だけはあることを全面に出して混ざっていました。

調査中盤、大井谷池の近くでは数種のトンボが確認できましたが、私の捕虫網は振っても振っても空振りするだけで、トンボを捕らえることができずにいました。そんな少し気持ちが落ち始めた時のことです。やや諦め気分で黒いアゲハ蝶を追いかけていた私の前を横切ったトンボに、思わず網を振りました。見事、捕獲！なんのトンボを捕まえたのかも確認せずに、喜び勇んで他の調査員の皆さんの元に走りました。

「おお！何をとってきた？」「なにになに？」みなさんの中に期待感が沸き立つ雰囲気の中、捕まえたトンボをそっと網から出してみると「んん！タベサナエか？いや

オグマサナエだ！千石荘では初記録かな」

やったー！それまで空回りし続けていた私のやる気がやっと成果を出せた瞬間でした。

オグマサナエは、フタスジサナエやタバサナエととても似ている種ですが、胸部の模様等で判別できると、その時に調査員の北田誠さんから丁寧に教えて頂きました。

### 【オグマサナエ見分けポイント！】

①肩部分に細く黄緑色の模様がある

②黄緑色部分が多い

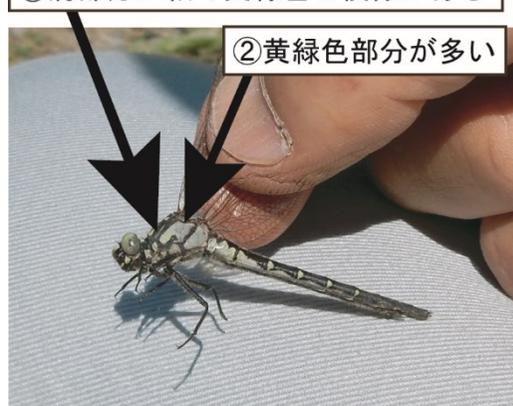


図 1. 捕獲した直後に撮影したオグマサナエ  
(貝塚市千石荘、2016. 5. 13 撮影)

福井県以西に広く分布するオグマサナエは、貝塚市内では馬場周辺の1993-2003年に記録が多く、決して珍しい種ではありませんでした。しかし、現在では環境省レッドリストで準絶滅危惧に指定され、大阪府レッドリストにおいても2014年の改定でランク外から絶滅危惧Ⅱ類(=絶滅の危惧が増大しているもの)に指定されました。自然遊学館の記録だけでなく、大阪府下でも減少しているものと考えられます。

この「オグマサナエ *Triogomphus ogumai*」は、1949年に日本を代表する昆虫学者の朝比奈正二郎(あさひな しょうじ

ろう 1913-2010) 氏によって新種記録されたトンボですが、この「オグマ」とは？ 実は、日本のトンボ研究における第一人者とも言える小熊 捍（おぐま まもる 1886-1971）氏に献名された名前なのです。通常、新種の学名（あるいは和名）を決める際には、その種の色や形などの特徴、または採集された場所、採集者の名前などを入れたりするのが一般的です。その他に、その分野の発展に貢献した方に、感謝と尊敬の気持ちを込めて、その方の名前を種名に入れることがあります。それが献名（または献呈）です。

この日は、「千石荘はじめまして」の私が、同じく「千石荘はじめまして」のオグマサナエを捕獲したという「ダブルはじめまして」の日でした。

#### 引用文献

- 『大阪府レッドリスト 2014』（大阪府、2014）  
『近畿のトンボ図鑑』（いかだ社、2009）

（澤田 智子）

## スネナガイソガニ

6月26日、ボーイスカウト貝塚2団が主催の地曳網が二色の浜で行われ、獲れた生きものの解説役として参加してきました。大量に網に入るアナアオサをかき分けて生きものを探すと、ドロメヤクサフグ、ニホンウナギなどの魚のほか、タイワンガザミやイシガニ、スネナガイソガニのカニ類も採集されました。

そのなかで、スネナガイソガニ

*Hemigrapsus longitarsis*（モクズガニ科）は大阪府レッドリスト 2014 で準絶滅危惧（大阪府内において存続基盤が脆弱な種）に選定されています。近木川河口で多くみられるケフサイソガニなどと比べ歩脚がほそ長く、和名のスネナガの通り、特に脚先付近の節が長いのが特徴です。また和名だけでなく、学名の *longitarsis* も同様の意味があります。甲らは縦（甲長）と横（甲幅）がほぼ等しい正方形で、表面には短毛が密生しています。

生息するのは潮間帯下部から潮下帯の砂泥底やアマモの根元付近などの少し深いところですが、ですから海岸で普段行っている観察会では、ほとんど見かけない種になり、これまでの行事では「夕暮れの海探検」で突堤から沈めたカゴ網の仕掛けで獲れたことがありました（自然遊学館だより、No.65）。

ボーイスカウトの子供たちに「なかなか珍しいスネナガイソガニが獲れたよ！」と興味をひこうとするも、魚たちや、派手なタイワンガザミを前にして、その地味で小さなカニに関心を示す子供はいないようでしたが...



図 1. スネナガイソガニ（二色の浜、2016. 6. 26）

（山田 浩二）

 館長コーナー

**海の学びミュージアムサポート 2016**

今年度も日本財団の募集する海の学びミュージアムサポートプログラム2「海の博物館活動サポート事業」に募集したところ、見事申請が認められましたことを報告し、今年度の事業を紹介します。



今年度行う海の学びの紹介

**【事業名と実施期間】**

スナメリが棲む海に何が必要？  
『いきものが棲みやすい海を求めて』

平成 28 年 6 月 1 日（水）  
～平成 29 年 3 月 31 日（金）

**【事業の目標】**

大阪湾はここ数年できれいになり、生きものにとって棲みよい場所になりつつある。しかし、漁獲量が減っている生きものがあることや、アサリの貝毒が毎年発生している。『水がきれいになっても豊かな海と言えるのか？』など疑問は残る。そこで『生きものが棲みやすい海、より良い環境とは何か？』を考えるきっかけとして大阪湾の生きものの頂点にいる《スナメリ》を知ることと解決の手がかりとしたい。

**《 活 動 の 概 要 》**

**大阪湾の生きもの学習会と  
生きもの講座**

**I. 大阪湾の生きもの学習会**

主な内容

- 聞き取り学習会
  - ・スナメリ学習会
  - ・大阪湾の話聞く
  - ・見学と学習会

○現地調査と学習会

- ・山（和泉葛城山）と川（近木川）と河口の生きもの調査
- ・大阪湾の生きもの調べ

**II. 生きもの講座**

上記 I のスナメリ学習会を受け  
自分で骨格標本作り

主な内容

- ・実物のスナメリの骨を見て触ってみる
- ・スナメリの骨を自分たちで組み立て骨格標本をつくる

（部分ごとに組み立て、最後に全体を組み合わせ完成する）

実施予定時期 10月から翌年3月

実施場所 当館

参加人数 有志（延べ人数 100人）

実施回数 月1回から2回

**III. 報告会**

1年間の調査活動のまとめ

- ・大阪湾の環境と生きものとの理想的な関係についてまとめと報告。
- ・シンボル『スナメリ剥製』『スナメリ骨格標本』展示披露

## 活動報告と今後の予定

### 大阪湾の生きもの学習会

#### ○現地調査

《大阪湾（二色の浜）の生きもの調査》

実施済みの行事の内容と実施日

#### ・稚魚放流とビーチクリーン

6月11日（土）二色の浜のビーチクリーンを行い、その後ヒラメの稚魚を放流しました。

#### ・親子釣り体験

6月25日（土）初心者対象の行事。講師を招いて海釣り体験をしました。



海釣り体験の様子



海釣り体験後講師から話を聞く参加者

#### ・二色の浜アマモ観察・地曳網

7月3日（日）貝塚二色の浜沖で、『アマモ』観察を行いました。参加者はシュノーケリングで海面に浮かびながらアマモとその周辺の生きもの観察をしました。



受付の様子



シュノーケルとライフジャケットの説明を受ける



シュノーケリング練習



ダイビング調査準備 1



観察の様子



ダイビング調査準備 2

前日7月2日(土)には観察会行事に先立って、同じ場所でアマモ調査活動を行いました。調査活動は調査員5名で干潮時に行いました。

まず、調査員はシュノーケリングで会場となる場所の海底の様子やアマモの生息状況を調べ、マップに表しました。

その後、調査員はスキューバダイビングで沖の海底の様子や生き物の生息状況を調べました。

この日は、午前中から海水の濁りが強く視界は1m以下でした。アマモ調査は何とか行えましたが、ダイビングには不向きでした。しばらくダイビング調査を行いました。ほとんど成果はありませんでした。

今後の予定

・河口の生きもの調べ

9月3日(土) 近木川河口でのカニ釣り(午前)と生きもの調べ・地曳網体験(午後)を行う予定です。

《大阪湾(せんなん里海公園)の

生きもの観察会》

・海藻おしば体験とウミホテル観察

10月10日(月)(バス利用) 大阪府立青少年海洋センターを借りて海藻おしば体験とせんなん里海公園でウミホテルの観察会を行う予定です。

ほかの行事

《生きもの講座》

スナメリ学習会を受けみんなで骨格標本作りませんか？

主な内容

- ・スナメリの骨を組み立て、骨格標本をみんなでつくる
- 大まかな標本作りの流れ
- 講師を招き、専門職員の方から話を聞く→月ごとに部分完成→全体を組み立てる→完成品を展示

現在、実施時期は未定です。準備ができ次第お知らせすることになります。多くの方のご参加をお待ちしています。

《海の学び報告会》

大阪湾の環境と生きものとの理想的な関係についてのまとめと報告をおこないます。

- ・会場には参加した人たちのまとめを掲示します。
- ・同時に参加者を含め関係する人たちから生きものが棲みやすい海の報告会を行います。
- ・参加者同士で意見交換を行います。
- ・最後に講師から今回の総評と今後の方向性を含めた講演を行います。
- ・今回のシンボル『スナメリ剥製』と『スナメリ骨格標本』を展示披露します。

報告会開催日時は平成 29 年 2 月ごろを予定しています。剥製や骨格標本の完成の時期に合わせ行う予定です。

このように当館では、従来の行事とともに

に魅力ある行事を実施しています。最後に当館の年間行事から今後の行事予定をお知らせします。

平成 28 年度 自然遊学館行事予定より

9 月 24 日 (土)	近木川のアユを調べよう
10 月 1 日 (土)	虫と星の観察会 (善兵衛ランド共催)
1 月 6 日 (金)	春の七草摘み
2 月 4 日 (土)	二色の浜の打ち上げ貝拾い
2 月 18 日 (土)	バードウォッチング

詳細は自然遊学館ホームページにてご確認ください。今後とも自然遊学館活動にご理解・ご協力をお願いします。

(高橋 寛幸)

 いきものがかり

**遊学館で飼育している生きもの 7**

春になり、あたたかくなってきて、活動のしやすい季節になってきました。

今回は、自然遊学館で飼育しているカエルを紹介したいと思います。貝塚市で見られるカエルは 9 種で、そのうち飼育している 3 種類を紹介します。

初めは、ヌマガエルです。ヌマガエルは、よく、田んぼに行くとみられるカエルの仲間です。間違えやすい仲間として、

ツチガエルがあげられます。ツチガエルとヌマガエルを見分けるときのコツは、ひっくり返して、お腹の部分が真っ白だとヌマガエル、灰色だとツチガエルです。遊学館では、エサとして、コオロギをあげています。



図 1. ヌマガエル

次に紹介するのは、トノサマガエルです。一番聞きなじみのあるカエルと思います。ですが、こちらも見間違いやすいカエルがいて、ダルマガエルと言うカエルがいます。トノサマガエルとダルマガエルを見分けるときのコツは、こちらもひっくり返し、お腹が真っ白だとトノサマガエル、お腹が白く周りが斑模様まだらなのがダルマガエルです。トノサマガエルにも、エサとして、コオロギをあげています。



図 2. トノサマガエル

最後にウシガエルを紹介します。ウシガエルは、川や池などに生息しています。日本で生息しているカエルの中では、一番大きいカエルですが、外国から食用として持ち込まれたのが逃げ出して繁殖してしまいました。今は、特定外来生物に指定されていて、飼育やほかの池に逃がすという行為は禁止されています。原因は、日本の在来種が食べられて、減っていることが一つあげられると思います。遊学館では、近畿地方環境事務所から許可をもらい飼育しています。ウシガエルは肉食性で、口に入る大きさのエサなら、ほぼ食べることができます。遊学館では、エサとして、アメリカザリガニや金魚などをあげています。



図 3. ウシガエル

おまけ

ウシガエルが移入されてきた時、エサとして、アメリカザリガニが移入されたのですが、ウシガエル同様、逃げ出してしまったり、食材としての利用や飼育などで、生息範囲を広め、今では本州から沖縄本島までいます。北海道でも温かい水が流れ込む水域には定着しているようです。



図 4. アメリカザリガニ

(鈴子 勝也)

### 寄贈標本

#### <鳥類>

- ◆西浦良一さんより  
カワラヒワ 巣 1 点  
貝塚市二色 2016 年 5 月 12 日採集
- ◆匿名希望さんより  
イソヒヨドリ 死体 1 点  
貝塚市澤 2016 年 6 月 24 日採集

#### <爬虫類>

- ◆かし村なおと・みや本か歩・宮本大世さんより  
ミシシippアカミミガメ 骨 1 点  
二色の浜 2016 年 4 月 30 日採集
- ◆貝塚市立第二中学校より  
アオダイショウ 幼蛇 1 点  
貝塚市福田 2016 年 5 月 11 日採集
- ◆西敏明さんより  
アオダイショウ 幼蛇 1 点  
貝塚市名越 2016 年 6 月 23 日採集

#### <魚類>

- ◆福島秀人さんより  
キジハタ 生体 1 点  
クジメ 生体 1 点  
泉佐野市りんくう往来北  
2016 年 4 月 2 日採集  
カサゴ 生体 4 点  
泉佐野市りんくう往来北  
2016 年 4 月 16 日採集  
キジハタ 生体 1 点  
カサゴ 生体 5 点  
泉佐野市りんくう往来北  
2016 年 5 月 14 日採集
  - ◆西出康介さんより  
ハタタテヌメリ 生体 1 点  
2016 年 5 月 19 日 佐野漁港譲受品
  - ◆三俣二生さんより  
カサゴ 生体 2 点  
貝塚人工島 2016 年 6 月 6 日採集
- #### <軟体動物>
- ◆鈴子佐幸さんより  
クロミドリガイ 生体 1 点  
倉敷市高洲 2016 年 4 月 10 日採集
  - ◆中原知輝さんより  
クチベニマイマイ 生体 1 点  
貝塚市脇浜 2016 年 6 月 9 日採集
- #### <節足動物>
- ◆宮川卯一郎さんより  
アメリカザリガニ 生体 2 点  
貝塚市新井 2015 年 10 月採集
  - ◆西出康介さんより  
テナガテッポウエビ 生体 2 点  
ヒラコブシガニ 生体 1 点  
2016 年 5 月 19 日 佐野漁港譲受品

<昆虫>

- ◆中原光規さんより  
コブマルエンマコガネ 成虫 1 点  
貝塚市二色 2015 年 9 月 14 日採集
- ◆福島秀人さんより  
ウンモンズズメ 成虫 2 点  
貝塚市二色 2016 年 4 月 22 日採集  
クスサン 幼虫 1 点  
マイマイガ 幼虫 1 点  
貝塚市二色 2016 年 5 月 12 日採集  
ゴマダラカミキリ 成虫 1 点  
貝塚市二色 2016 年 6 月 8 日採集
- ◆常道武士さんより  
ニジュウヤホシテントウ 成虫 1 点  
貝塚市澤 2016 年 5 月 4 日採集  
コブマルエンマコガネ 成虫 1 点  
貝塚市澤 2016 年 5 月 6 日採集  
キマダラカメムシ 成虫 1 点  
貝塚市澤 2016 年 6 月 15 日採集
- ◆西出康介さんより  
ウリキンウワバ 幼虫 4 点  
貝塚市脇浜 2016 年 5 月 16 日採集  
スズメガ科の一種 蛹 1 点  
貝塚市脇浜 2016 年 5 月 18 日採集  
ビロードスズメ 幼虫 1 点  
貝塚市脇浜 2016 年 6 月 15 日採集
- ◆濱谷巖さんより  
コガタズメバチ 巣 1 点  
岸和田市別所町 2016 年 5 月 21 日採集
- ◆遠藤諒太さんより  
アカホシテントウ 成虫 1 点  
貝塚市畠中 2016 年 6 月 4 日採集  
ムツキボシテントウ 成虫 1 点  
キイロテントウ 成虫 1 点  
アカホシテントウ 成虫 2 点

- 貝塚市畠中 2016 年 6 月 9-10 日採集
- ◆沖原均さんより  
コガタズメバチ 巣 1 点  
貝塚市二色 2016 年 6 月 6 日採集
- ◆大橋良子さんより  
アオムシコマユバチの脱出繭を多数  
付けたタケカレハ 幼虫 1 点  
貝塚市千石荘 2016 年 6 月 8 日採集
- ◆山田壮真さんより  
ヒメボタル 成虫 1 点  
泉南市新家 2016 年 6 月 17 日採集
- ◆寺田拓真さんより  
ヒメオオメカメムシ 成虫 1 点  
ハマベエンマムシ 成虫 1 点  
貝塚市二色の浜 2016 年 6 月 26 日採集
- ◆高田雅彦さんより  
ヒメオオメカメムシ 成虫 1 点  
貝塚市二色の浜 2016 年 6 月 26 日採集

<寄贈写真>

- ◆山口隼平さんより  
クルマバッタ 1 枚  
ツチイナゴ 1 枚  
貝塚市千石荘 2015 年 9 月 11 日撮影
- ◆覚野良子さんより  
アカミノヤドリギ 1 枚  
ほか 7 枚  
和泉葛城山 2016 年 3 月 20 日撮影

---

- タチネコノメソウ 1 枚  
ナツトウダイ 1 枚  
フデリンドウ 1 枚  
マルバコンロンソウ 1 枚  
ほか 12 枚  
和泉葛城山 2016 年 3 月 31 日撮影



**ナツウドイ**

和泉葛城山 2016年3月31日、覚野良子撮影



**ヒトリシズカ**

和泉葛城山 2016年4月16日、覚野良子撮影



**フデリンドウ**

和泉葛城山 2016年3月31日、覚野良子撮影



**ツルカノコソウ**

和泉葛城山 2016年4月16日、覚野良子撮影

コガネネコノメソウ 1枚

トウゴクサバノオ 1枚

ほか8枚

和泉葛城山 2016年4月2日撮影

オオサンショウソウ 1枚

ヒメレンゲ 2枚

ほか68枚

和泉葛城山 2016年4月17日撮影

タムシバ 1枚

エイザンスミレ 2枚

ハシリドコロ 2枚

ユキザサ 2枚

ユリワサビ 1枚

ヒトリシズカ 3枚

ツルカノコソウ 1枚

クマシデ 1枚

ほか42枚

和泉葛城山 2016年4月16日撮影



**オオサンショウソウ**

和泉葛城山 2016年4月17日、覚野良子撮影



**ヒメレンゲ**

和泉葛城山 2016年4月17日、覚野良子撮影



**ウンゼンツツジ**

和泉葛城山 2016年5月1日  
覚野良子撮影

キッコウハグマ 1枚  
ウラジロノキ 1枚  
ホオノキ 1枚  
ほか 23枚

貝塚市木積～蕎原 2016年4月30日撮影

オオアリドオシ 2枚  
ほか 25枚

貝塚市蕎原 2016年5月8日撮影



**キッコウハグマ**

貝塚市木積～蕎原 2016年4月30日  
覚野良子撮影

ウラジロウツギ 2枚  
クワガタソウ 2枚  
ナベワリ 3枚  
ほか 52枚

和泉葛城山 2016年5月8日撮影



**クワガタソウ**

和泉葛城山 2016年5月8日  
覚野良子撮影

カツラギグミ 1枚  
ニリンソウ 1枚  
メギ 2枚  
サルナシ 2枚  
ウンゼンツツジ 5枚  
イヌザクラ 2枚  
ほか 103枚

和泉葛城山 2016年5月1日撮影

キバナチゴユリ 1枚  
ヤブデマリ 1枚  
ほか 8枚

和泉葛城山 2016年5月22日撮影

コガクウツギ 1枚

ヤブウツギ 1枚  
キクバドコロ 1枚  
カキノハグサ 1枚  
ほか 32枚  
和泉葛城山 2016年5月29日撮影

---

イチヤクソウ 5枚  
貝塚市蕎原 2016年6月3日撮影

---

ミヤマウコギ 1枚  
ほか 5枚  
和泉葛城山 2016年6月4日撮影

---

コ克蘭 7枚  
貝塚市千石荘 2016年6月9日撮影

---

ヒメハギ 1枚  
ほか 19枚  
貝塚市蕎原 2016年6月12日撮影

---

クモキリソウ 4枚  
オオバノトンボソウ 1枚  
ほか 25枚  
和泉葛城山 2016年6月12日撮影



**クモキリソウ**  
和泉葛城山 2016年6月12日  
覚野良子撮影

- ◆喜多理恵さんより  
オツネントンボ 1枚  
貝塚市馬場 2016年4月3日撮影
- ◆森本静子さんより  
ツチダニ属の一種 2枚  
貝塚市二色 2016年4月9日撮影
- ◆北田誠さんより  
イチリンソウ 5枚  
和泉葛城山 2016年4月26日撮影
- ◆秋武仁志さんより  
ミスジチョウ 1枚  
貝塚市千石荘 2016年5月22日撮影
- ◆西出龍生さんより  
ボラ 4枚  
貝塚市近木川河口 2016年6月1日撮影  
アユ 2枚  
貝塚市堤 2016年6月3日撮影
- ◆貝塚市立葛城幼稚園より  
コガタズメバチの巣 2枚  
貝塚市木積 2016年6月2日撮影
- ◆濱谷巖さんより  
リュウゼツランの花 4枚  
阪南市箱作の岸谷國男さん宅  
2016年6月24日 撮影

<リュウゼツラン>

4、50年に一度花をつける植物と言われていて、その開花が話題になることがあります。花茎を伸ばし始めると1日で10cm以上も伸び、花をつける頃には10mにもなります。開花後に、その株自体は枯れて、その周りに生えた子株が生長します。今回お知らせいただいたものは、大きな植木鉢で栽培され、わずか13年ほどで花をつけたそうです。(湯浅)

## スタッフ日誌

**4月17日**、川村甚吉前館長が遺された切り絵作品を展示する「第11回生きもの切り絵展」を開催しました（5月8日まで）。額縁に入れた切り絵作品をボードに並べるだけで、特別展示として十分に様になるのは、それぞれの作品に手間を掛けて仕上げられた作業の質と量によるものだと、改めて感じ入った次第です。（スタッフ一同）

**4月23日**、市民企画講座「せんごくの杜の魅力を探ろう！」の第1回目、「せんごくの杜を歩こう」において、植物の紹介をしながら現地を案内しました。（白・湯）

**5月18日**、木積の町会館で、長生会の方に、近木川上流中流の生きもののお話をしました。近木川の昔の様子を伺い、そこにすむ川魚を昔はどう呼んでいたのかなどを教えてください、話をした側が勉強になることが多々ありました。（山・岩・湯）

**5月25日**、今年も二色の第五プールで、ヤゴ救出作戦を実施しました。二色小学校と第五中学校の有志48人で、一般用と幼児用プールに入って、ギンヤンマ、ウスバキトンボ、アカネの仲間など、約130匹のヤゴを救出しました。昨年よりもウスバキトンボが大幅に少なかったのですが、その分、館内に持ち帰ったヤゴを丁寧に飼育することが出来ました。（岩・山・鈴）

**6月19日**、市民企画講座「せんごくの杜の魅力を探ろう！」の第2回目、「せんごくの杜のカブトムシはすごいよ！」（中央公

民館）において、千石荘の自然の大切さ、千石荘にすむ生きものたち、自然遊学館の保全案の紹介をしました。（岩）

\* 自然遊学館だよりのバックナンバーは、下記のホームページよりご覧いただけます。

自然遊学館だより 2016 夏号 (No. 80)

貝塚市立自然遊学館

〒597-0091

大阪府貝塚市二色3丁目26-1

Tel : 072 (431) 8457

Fax : 072 (431) 8458

E-mail: [shizen@city.kaizuka.lg.jp](mailto:shizen@city.kaizuka.lg.jp)

<http://www.city.kaizuka.lg.jp/shizen/>

発行日 2016. 8. 22

この小冊子は庁内印刷で作成しています。